

練馬区立関町図書館における都市農業支援サービスの企画立案

菊池陽子 練馬区立関町図書館

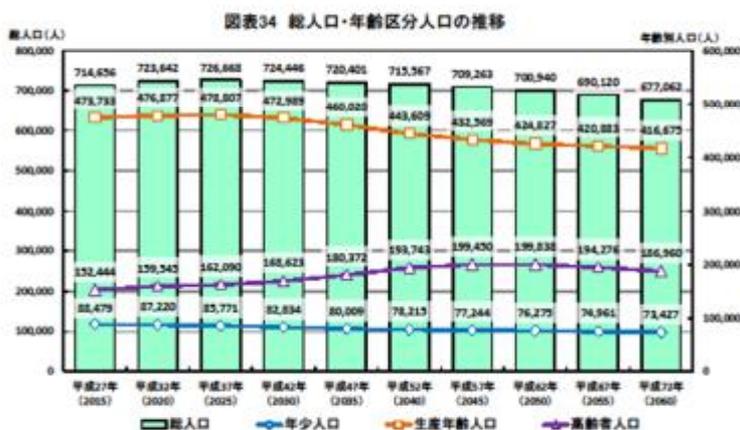
【1】はじめに

今回受講させていただいたビジネス・ライブラリアン講習会の成果として、練馬区立関町図書館における都市農業支援サービスの企画を修了レポートとして提出する。主なサービス対象は、区内在住の都市農業従事者であり、都市農業の振興を目的として実施する。実施年度は2017～2019年度の3か年とする。

【2】練馬区の概要

1. 地理的・歴史的な特徴

- i. 14世紀半ばごろ豊島氏が練馬城や石神井城を築いたが、その後は太田氏や北条氏の勢力下に置かれた。江戸時代の練馬は、ダイコン、ゴボウ、イモなどを江戸市中に供給する一大近郊農村として発展した。明治に入り、練馬の大部分は北豊島郡に編入された。1932年に練馬は板橋区に編入されたが、第二次大戦後の1947年に練馬区として独立した。
- ii. 練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境を持ち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。練馬区は東西約10キロメートル、南北4～7キロメートルのほぼ長方形をしており、その面積は48.16平方キロメートルで、東京都総面積の約2.2%、23区の総面積の約7.7%に当たり、23区の中では5番目の面積を有している。人口は、2016年3月1日現在で723,442人。増加を続けているが、2025年頃をピークに減少に転じるとされている。



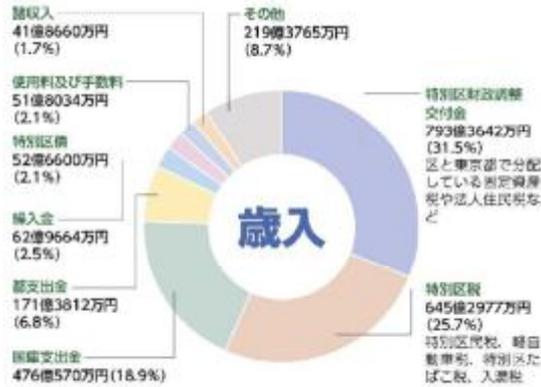
練馬区HP

「練馬区人口ビジョン
2015年12月」

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keikaku/vision/jinkou-vision.files/jinkou-visoin.pdf>[accessed2017-03-20]

2. 財政状況

- 2017年度の一般会計の予算額は、2514億7723万円（前年度比3.3%減）、特別会計含む合計の予算額は4016億3068万円であった。



練馬区HP「一般会計内訳グラフ（歳入）」

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/zaisei/yosan/h29/h29tosho/h29tosho.files/29sainyuu.pdf>[accessed2017-03-20]



練馬区HP「一般会計内訳グラフ（歳出）」

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/zaisei/yosan/h29/h29tosho/h29tosho.files/29saisyutsumokuteki.pdf>[accessed2017-03-20]

- 2017年度教育費
297億1909万円（うち図書館費20億6941万円）

3. 練馬区の長期計画

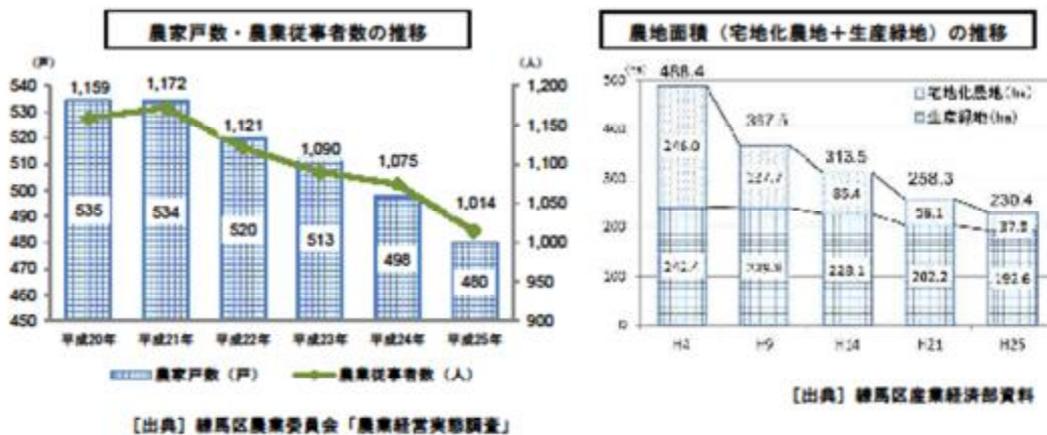
練馬区は今後の区政運営の方向性を明らかにするため、平成27年度以降の区の基

本計画として「みどりの風吹くまちビジョン」を策定した。ビジョンのなかでは、5つの戦略計画と具体的な18の計画を提示している。今回のビジネス支援サービスでは、特に戦略計画「IV 練馬区の魅力を楽しめるまちづくり」の「計画14 農の生きるまち練馬」に注目してサービスの根拠を見ていく。

【3】練馬区における都市農業

1. 練馬区における農業の現状と課題

農業経営実態調査（2016年度）によると、区内耕作面積は198ヘクタール、農家戸数は429戸、農業従事者数は910人である。耕作面積・農家数ともに毎年減少しており、昨年度から約3ヘクタールが減少し、農家数で12戸、農業従事者で9人の減少となった。また、農業収入額100万円未満の農家が全体の70%を占めるなど、農業を専業としていくことが困難な状況が続いている。



練馬区HP「みどりの風吹くまちビジョン」《白書編》14 練馬の農業」

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keikaku/vision/vision.html>[accessed2017-03-20]

農業経営実態調査（2016年度）の結果によると、現在の農産物の販売形態は、収益性や効率性などの理由から、1位「自宅販売・無人販売」、2位「共同直売所」、3位「市場出荷」の順となっている。また、農業者意識調査（2014年度）で「今後の農業経営に対する考え」を調査したところ、「将来も継続するが経営規模は現状のままでよい」が46%、「当面は継続するが縮小させたい」が21%、「継続することは既に難しい」が25%との結果となった。一方で、区民意識意向調査（2017年度）では、「農地は練馬区にとって欠かせない重要なものである」という回答が71%となり、重要だと思ふ農業振興策では「意欲ある農業者の取り組みに対する支援」が39%、「練馬産野菜のブランド化による魅力の発信」が次いで25%であった。

2. 「みどりの風吹くまちビジョン」にみる戦略

練馬区では、都市農業・農地の果たす多面的な役割として、①農産物供給機能 ②レクリエーション・コミュニティ機能 ③福祉・保健機能 ④環境保全機能 ⑤教育機能 ⑥防災機能 ⑦景観形成・歴史文化伝承機能という 7 つの役割を挙げており、本ビジョンにおいては、2016 年度からの 5 か年の主な取組として、以下の 3 項目を提示している。

i. 意欲的な都市型農業経営の支援

「練馬果樹あるファーム」事業の支援、「練馬区農の学校」の運営

ii. 練馬の都市農業の特色を活かした魅力の発信

練馬産農産物のブランド化、魅力発信。即売会「ねりマルシェ」の実施。

iii. 都市農地の保全に向けた取り組みの推進

規制緩和に向けた取組、農の風景育成地区制度の活用。

【4】関町図書館における都市農業支援サービス

1. 関町図書館の概要

関町図書館は 1982 年に開館し、現在の蔵書数は約 12 万冊。2015 年度における個人貸出者数は 152,119 人、個人貸出点数は 466,987 点であり、区立図書館のなかでは中規模館としての位置づけを持つ。練馬区では中～大規模館が区内での所蔵が最後の一冊となった図書を分担して保存しているが、関町図書館は 6 類の「産業」と 8 類の「語学」の保存担当館となっている。

関町図書館は練馬区の南西部に位置し、関町南、関町東、関町北、立野町、上石神井が主なサービスエリアであり、東は杉並区、南は武蔵野市、西は西東京市と接している。

2. 都市農業支援サービス実施のメリットと目的

図書館が本サービスを実施するメリットとしては、農業従事者にとって必要な情報を司書がリサーチして提供できることである。そしてもうひとつのメリットとして、集客率の高さがあげられる。2015 年度に実施した「区民意識意向調査」のなかで、過去 1 年間に利用した区立施設を聞いたところ、区役所・出張所が 63%、次いで図書館が 40%という結果であった。

図書館側の目的としては、区内産業の振興、そして住民の地域への愛着を育てたいという意図がある。図書館は、区立施設のなかでも老若男女様々な人達が利用するため、この特徴を生かすことができれば、新しい住民と昔から住む住民の交流の場であったり、年齢を超えた交流であったりと地域コミュニティのハブとしての役割を發揮することができる。農業においても、農業体験や即売会・直売所等の情報を図書館

が発信することで足を運ぶ人が増え、顔が見える生産者が作った野菜を食べることができ、生産者と住民の交流が生まれることで地域に対して愛着をもって住み続ける人が増えることへの支援をしていきたいと考える。

区内図書館のうち関町図書館が実施する理由としては、6 類の保存担当館であることから豊富な農業関連図書が所蔵されていることがあげられる。また、関町図書館が所在する石神井地域は区内でも農業の盛んな地域であり、農業従事者が多く住んでいる。

以上の理由から、関町図書館で都市農業支援サービスを実施することは、農業従事者・図書館利用者双方にとって大きな効果を生むと考える。

3. サービス内容

本サービスは、2017～2020 年度の 3 か年の計画として実施する。

i. 対象

区内農業従事者

ii. 実施内容

「農業従事者への情報支援」と「生産者と消費者をつなぐ取組」という二つのテーマでサービスを実施する。

● 農業従事者への情報支援

- ・ 館内に「農業支援コーナー」を設置し、関連図書・雑誌を収集する。農業の現場で役に立つ実践書、経営に関する図書、レファレンスに利用する参考図書を中心として、農業に関する図書は全て「農業支援コーナー」へ集約する。
- ・ 農業関連のレファレンスを実施していることを宣伝する。
- ・ ルーラル電子図書館を導入し、レファレンスに利用する。
- ・ 関連機関と連携した農業ビジネスセミナーを開催する。

● 生産者と消費者をつなぐ取組

- ・ 農業支援コーナーで関連情報の発信をする。

生産者の紹介

近隣の直売所、共同販売所の紹介

農業体験、区民農園など身近で「農」を体験できる事業の紹介

就農が可能な農園や援農先の情報を提供

- ・ 館内で「ねりマルシェ」を開催する。

※「ねりマルシェ」

練馬産野菜や江戸東京野菜、旬の花や果物、練馬産野菜を使用した飲食物・

加工品などの即売会。練馬区都市農業課が主催している。

iii. 実施期間と内容

2017年度

- ・ 農業支援コーナーの設置、関連図書の購入
- ・ ルーラル電子図書館の導入
- ・ 関連機関、近隣生産者への挨拶とサービス説明
- ・ 「農業支援コーナー」での情報発信
- ・ 農業関連情報に特化した職員育成のため外部研修への参加

2018年度

- ・ 図書館が発行する「土とくらしの新聞」刊行開始。年4回発行し、地域の生産者の紹介や練馬野菜・江戸野菜など農業に関するコラム、地域に根差して暮らす人達の紹介などを掲載
- ・ 練馬区都市農業課、JAと連携した農業ビジネスセミナーを開催
- ・ 図書館テラスで「ねりマルシェ」を開催

2019年度

- ・ 「土とくらしの新聞」発行（年4回）。
- ・ 練馬区都市農業課、JAと連携した農業ビジネスセミナーを開催
- ・ 図書館テラスで「ねりマルシェ」を開催
- ・ 生産者と消費者の交流会を図書館にて開催

iv. 経費 2017～2019年度 合計 110万円

2017年度 50万円

内訳（資料費：30万円、データベース契約：3万円、消耗品費：12万円、職員研修費：5万円）

2018年度 30万円

内訳（資料費：10万円、データベース契約：3万円、講師料：5万円、印刷費：5万円、消耗品費：2万円、職員研修費：5万円）

2019年度 30万円

内訳（資料費：10万円、データベース契約：3万円、講師料：5万円、印刷費：5万円、消耗品費：2万円、職員研修費：5万円）

v. 連携先

自治体関連の情報を入手する際や農業関連団体・農業従事者との関係構築、「ねりマルシェ」の開催においては、練馬区都市農業課との連携が必要となる。また、JA東京あおばと連携することにより、農業従事者との関係構築やセミナーの開催を企画する。あわせて農業従事者へ図書館が実施する都市農業支援サービスを広報していただくこと等で協力関係を築くことができる。

vi. 事業評価

本サービスの評価については、定量的評価と定性的評価を組み合わせた以下の4項目で評価を実施する。

- 農業支援コーナー資料の貸出回数
- 農業関連レファレンス受付件数
- 「つちと暮らしの新聞」配布部数
- アンケートの実施
 - ・ 毎年12月に実施している「練馬区立図書館利用者アンケート」に都市農業支援サービス認知度の項目を追加する。
 - ・ 農業ビジネスセミナー参加者へアンケートを実施
 - ・ ねりマルシェ参加者へアンケートアンケートを実施
 - ・ コーナーでの紹介や新聞制作で関係した農業従事者へアンケートを実施

評価は毎年度末に実施し、次年度の事業内容へ反映させる。最終年度の2019年には夏までに本サービスの事業報告をまとめ、次年度以降の事業提案ができるように準備を行う。

以上